

キッズハローワークへの参加について

報告者：工 藤 雄 行¹⁾

1. 概要

平成29年10月15日（日曜日）、弘前学院聖愛中学校高等学校を会場に、地域の小学生を対象とした職業体験イベント「キッズハローワーク」が開催された（主催：おしごと体験広場キッズハローワーク実行委員会）。本専攻においても、介護福祉士の役割や魅力について、地域住民に理解を深めてもらうことを目的に、介護福祉士の職業体験ブースを初出展した。今回のテーマは「視覚障がい者のお手伝い」である。



(2) チームカンファレンス【実施前】

次にチームカンファレンスとして、介護者と指導係役の教員（以下、指導係）との顔合わせを行い、これから体験してもらう内容について説明をした。「視覚障がい者のお手伝い」の具体的な体験内容は、衣類の着衣介助、歩行介助、食事介助の3種類である。これらの体験を指導係がマンツーマン対応で指導することを介護者に伝えた。

体験参加への同意が得られた利用者に対しては、予め体験内容を説明した後、待機場所にてアイマスクを装着してもらった。



2. 実施内容

参加者の体験内容は下記のとおりである。(1)から(6)の順で、一人につき約30分のプログラムを体験してもらった。また、参加者には、介護者役のみ体験してもらい、利用者役は、家族同伴の場合には、家族へ依頼した。同伴の家族が不在の際は、教員が利用者役を担当した（以下、どちらの場合でも利用者として略す）。

(1) 身支度

介護者役の参加者（以下、介護者）には、まず、体験時のユニフォームとして、こちらで用意したエプロンを装着してもらった。そして、エプロンには、自分の名前を書いた名札をつけてもらった。

(3) 着衣介助

最初に、介護者から利用者に対し、挨拶及び自己紹介、本日の介助内容の説明をしてもらった。次に介護者に、数種類ある上着の中から、色や柄が異なるもの2種類を選択してもらった。選択した2種類の上着を利用者の前に持参し、それぞれの上着の色や柄について、相手が理解できるよう、できるだけわかりやすく説明するよう促し、利用者には、その中から好みのものを1種類選択してもらった。その後、介護者は一部介助にて上着の着衣介助を行った。利用者が一人でできる場所は行ってもらい、手助けが必要だと思う所は介助するよう指導係が支援した。

1) 弘前医療福祉大学短期大学部 生活福祉学科 介護福祉専攻（〒036-8102 青森県弘前市小比内3丁目18-1）



(4) 歩行介助

介護者に対し、指導係から、誘導するルートや歩行介助時の姿勢(利用者には介護者の半歩後に立ってもらい、介護者の肩に手をかけてもらう)、歩行時の速度への配慮や、ルートの状況説明の大切さ(段差や曲がり角の有無等)について伝え、実際に歩行介助を行ってもらった。利用者に対しては、事前に白杖の使い方について指導係が説明をし、歩行介助時には実際に使用してもらった。



(5) 食事介助

今回は、ジュースにとろみをつけたものを介助し食べてもらうことを食事介助の内容とした。まず、介護者が利用者にジュースの味(アップルジュースとオレンジジュースの2種類から選択)の好みを聞き、選択した方のジュースにとろみ剤を入れてかき混ぜてもらった。その後とろみのついたジュースを実際に利用者に食べてもらった。利用者に口を開けてもらう声掛けや一口の量、嚥下状態の確認、二口目以降のとろみのついたジュースを口に運ぶタイミング等については、都度指導係が声掛けした。食事介助終了後は、介護者から利用者に対して、本日の介助内容終了の挨拶をもらった。

(6) チームカンファレンス【実施後】

最後に、介護者に今回のプログラムに参加しての感想発表等をしてもらい、質問等があった場合は都度指導係が回答し、プログラムを終了した。



3. 所感

今回、介護福祉士の職業体験ブースを初出展するにあたり、参加者は集まるであろうか、また、企画した内容を通して、小学生に介護の仕事の楽しさややりがいをどの程伝えることができるかという不安があった。前者については、一日を通して40名の参加があった。当日の指導係は当初3名とし、参加者に約30分のプログラムをマンツーマン対応していたが、途中、待機者が発生する時間帯もあり、指導係を後に1名増員し対応するに至ったことから、思いの他、盛況だったのではないかと思う。小学生がどうして介護福祉士の職業を体験したいと思ったのか、参加の動機について知りたいと思い、数名に聞いてみたところ、家族に体験することを勧められたという意見や、現在家族に介護を必要とする人がいることから、介護を身近に感じ体験しようと思ったという意見があった。また、参加者の中には数名ではあるが、将来は介護福祉士になりたいという明確な目標を持っている者もあり、非常に頼もしく感じた。参加者の介護福祉士になりたいという思いを継続的にサポートできるよう支援していくことの必要性も感じた。介護福祉士の職業体験を子供に勧めたという家族からは、これから先、必要な資格だと思ったので、子供に是非体験させたいと思ったという意見や、将来、自分の介護を子供にしてもらうことになるかもしれないので、いい機会だと思った等の意見があった。他者からの勧めによる参加、自発的な参加、いずれの場合においても参加者は皆、最初から最後まで、真摯な態度でプログラムに臨んでいた。

後者については、実施後のチームカンファレンスにおいて、参加者に感想発表をしてもらった中では、介護の仕事の楽しさややりがいよりも、利用者に対する介護内容の説明について、どのように伝えたら相手に理解してもらえるかというコミュニケーションの難しさや、各体験項目について、色々気を付けなければいけない点があることを初めて知り、介護の難しさを感じたという意見が多かったように思う。また、参加者の中には、目の不

自由な人の日常生活における困難さについて理解を深めたり、今回の体験で、視覚障がい以外にも、聴覚障がいについても考えるきっかけとなったと話す者もいた。これらのことについては、こちらが最初に想定していた結果には結びつかなかったかもしれないが、体験を通じて参加者がそれぞれに、介護福祉士の職業体験からの気づきを得ていたことが分かった。

今後の課題としては、参加者が一口に小学生といっても、1年生と6年生とでは、理解度も異なるため、それぞれの年齢に応じた対応の仕方を教員間で検討していく必要がある。また、体験後にアンケート等を実施し、参

加者の声も反映させ体験内容の充実も図っていききたい。次年度以降もキッズハローワークには継続的に出展し、一人でも多くの地域の小学生に、介護福祉士という職業について理解を深めてもらいたいと考えている。

4. 当日の主な役割分担

総括、受付	山口かおる
指導係 (一部、利用者役)	相馬陽子、福士尚葵、中村直樹、 工藤雄行